

## ともに考え、活動し、成長する博物館にむけて

- ・みんなでつくる博物館 新博ティーンズプロジェクト …P1
- ・博物館きわめるプロジェクト モノって何だろう? …P4
- ・三重大学との連携とシンポジウムの開催 …P6
- ・三重県立博物館 サポートスタッフ活動 …P7
- ・ミエゾウの足跡化石調査 …P7
- ・地域に残る古文書の調査 …P7
- ・設計の進捗状況 …P8

## 行事のご案内 …P8

- ・「みんなでつくる博物館会議 2009」の開催
- ・県立博物館移動展示「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」の開催
- ・「しぜん文化祭 in みえ」の開催

## ともに考え、活動し、成長する博物館にむけて

三重県では、2014年（平成26年）の開館にむけて新県立博物館の整備を進めています。今年度は、昨年度にまとめた「新県立博物館基本計画」に基づいた建築と展示の設計作業を行っています。

博物館の整備は、単に建物や展示室をつくることだけではありません。県民・利用者のみなさんが、博物館を使っ

てご自身の楽しみを見つけたり、友達をつくったりできる、そしてそうした活動の中から、新しい発見をしたり、自分たちの住んでいる地域についての愛着を深めていくことができる、そんな場をつくっていくことなのです。

そのため、新しい博物館ではどんな活動ができるのか？どんな博物館なら行きたくな

るか？どんな博物館なら使いやすいか？などについて、子どもたちをはじめ、県民・利用者のみなさんと一緒に検討を進めています。

今回は、こうした「協創（いっしょにつくっていく）」の活動や、さまざまな主体との連携の取り組みについて、ご紹介します。

## みんなでつくる博物館 新博ティーンズプロジェクト



滋賀県立琵琶湖博物館の玄関前で記念撮影

日頃忙しくて博物館から足が遠のきがちな10代の子どもたちが、自然な形で博物館に親しみ、博物館づくりに参加してもらうには、どうしたらいいか。子どもたちとともに考える博物館版の子ども会議（新博ティーンズプロジェクト）を文化庁の支援を得て実施しました。

夏休み前に県内の小学校・

中学校へ案内・募集したところ、小学5年生から中学2年生までの18名の子どもたちが参加してくれることになりました。リーダーに嵯峨創平さん（NPO法人環境文化のための対話研究所代表）、応援団に布谷知夫さん（滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員）・染川香澄さん（ハンズ・オン プランニング代表）、ゲス



ト応援団に中西紹一さん（有限会社プラス・サーキュレーション・ジャパン代表）をお迎えし、博物館の見学会やワークショップを、8月上旬から6回にわたり実施し、最終回に「子ども会議」として新博物館への提案を行ないました。

## 新博ティーンズプロジェクトはこんな感じでした！



参加を呼びかけるフライヤー  
(チラシ)



リーダーの嵯峨さんはいろんな  
アイスを駆使して、み  
んなの緊張をほくしてくれます

初回は8月8日。結団式  
を行いました。こどもたちは、  
ちょっぴり緊張気味で、一人  
ずつ安田生活・文化部長から  
隊員証・隊員手帳を受け取り  
ました。

でも、リーダーの嵯峨さん  
のワークショップが始まると  
…あっという間にみんながう  
ちとけました。嵯峨さんの  
ファシリテートのワザはす  
でい！このワザを体得しなけれ  
ば！と意気込むスタッフでし  
た。

第2回は、8月22日。  
県外の博物館見学ツアー1と  
して滋賀県立琵琶湖博物館を  
訪れました。見学時のテーマ  
は、「博物館ってどんなところ？  
表も裏も見てみよう！」  
ということで、展示室だけで  
なく、収蔵庫などのバック  
ヤードも見学し、収蔵庫の中  
のたくさんの資料にびっくり

しました。その後、学芸員の  
芦谷美奈子さんや布谷さんた  
ちと意見交換を行いました。

第3回は、9月19日に  
県外の博物館見学ツアー2と  
して兵庫県立考古博物館を訪  
れました。見学時のテーマは  
「博物館ってどんなところ？  
調べてみよう！」。

展示室を見学した後、事前  
にみんなが考えた「考古博物  
館でやってみたいこと」、「博  
物館でこんなことができたら  
いいな」などについて、ご案  
内いただいた藤原 悟 副館長  
や山下史朗課長、多賀茂治学  
芸員さんたちと、話し合いを  
しました。

発掘体験やパズルなどの体  
験がたくさんできる博物館で  
みんな大はしゃぎでした。

2回の見学ツアーで、博物  
館のさまざまな姿を知ること  
ができました。



琵琶湖博物館の芦谷学芸員さん  
に展示室を案内していただきま  
した



兵庫県立考古博物館の体験展  
示室「発掘ひろば」では、大はしゃ  
ぎ！

### 第4回からは、いよいよ本題の「こどもたちにとってどんな博物館だったら行く気になるか？」 「博物館でやってみたいこと」などを考えるワークショップが始まりました



みんなて「こんな博物館があつた  
らいいな」の歌をつくりました



ゲスト応援団の中西さんのワー  
クショップ。たくさんのメガネ  
にテンション上がりまくりのこ  
どもたち

第4回は10月3日。博  
物館の見学会などのふりかえ  
りをした後、「博物館でやり  
たいことを表現するワー  
クショップ」を行いました。

最後に、4つのグループに  
分かれて、ドラえもん歌で  
「こんな博物館があつたら  
いいな」の替え歌もつくりま  
した。

第5回は、10月31日。  
前半は、ゲスト応援団の中西  
紹一さんと、「イメージが  
変わるメガネ選びワーク  
ショップ」を行いました。2人  
がペアになって相手の子のイ  
メージを変えるメガネを選ん  
で撮影し、なぜそれを選んだ  
のかを説明しあいました。

メガネをかけることで相手  
の子のイメージをどう違  
ったイメージにするか、相手  
のどんなイメージを引き出  
したいかが重要で、そのた  
めに相手をよく観察すること  
が大

切だということを考えまし  
た。

後半は、4つのグループに  
分かれて、体を使って「博物  
館でともだちができる」一  
番いいシーンの「額縁写  
真」をつくり、撮影しまし  
た。

第6回は、臨時ワー  
クショップとして11月7日  
に行いました。まず、県立博  
物館の収蔵庫を見学。次に、「  
うちのネコ知りませんか？」  
などのアイスブレイクで盛り  
上がりました。

その後、グループ毎に、前  
回の「額縁写真」を発展さ  
せて、こどもたちの自由な  
アイデアを活かした「とも  
だちができる博物館」をめ  
ぐる4つのショーケース(短  
いお芝居)づくりを行いま  
した。

さまざまなワークショップ  
を通じて、こどもたちどう  
しの気持ちを一体にするこ  
とにも、博物館についての  
考えをねりあげていきまし  
た。



「額縁写真」づくりの様子



県立博物館の収蔵庫の見学  
では、たくさんの標本にび  
っくり！

## 第7回の11月28日は、しめくくりの発表として「こども会議」を行いました

**参加した18人のこどもたちが**考えた「どんな博物館がほしいか」についての発表を行いました。

まず、みんなでつくったコミュニティソング（ドラえもん歌の替え歌で）を披露した後、「ともだちができる博物館～4つのショートストーリー～」と題したショーケースを発表しました。

休憩をはさんで、布谷さんの司会で、野呂知事も交え、大人と対話する「こども会議」を行いました。このプロジェクトに参加した感想や新博物館への要望を出し合いました。

終了後のふりかえり&うちあげ会では、安田部長から、「これからも新博ティーンズプロジェクト隊員として、新しい博物館でわくわく・どきどきする活動を積極的に展開していきましょう」と、「これからも一緒に活動しま証」の証状を受け取りました。ショーケースの発表やこども会議の緊張から解放されたこどもたちは、いつも以上にテンション高く、大さわぎでした。

「博物館は非日常的な場と思われがちだけれど、こども

たちの暮らしのリズムで過ごせる場所、ほっとできる場所であってほしい。」と嵯峨リーダー。「博物館はいろいろな分野の専門家や貴重な資料に自分のペースで関わることができる恵まれた場所」と染川さん。「博物館が10代の居場所となって、フレッシュになれる場所にしていかないといけない」と布谷さん。文化庁の審査員からは「全国的に見ても、このように考えて博物館づくりをしてきたところはないと思う。」などの感想をいただきました。



ショートストーリーの合い間に、嵯峨さんと染川さんによる楽しいトークをいただきました



布谷さんの司会により「こども会議」はなごやかな雰囲気が進められました



Aグループ：「マンモスの狩り」



Bグループ：「展示を食べちゃう！」



Cグループ：「買える！展示」



Dグループ：「迷った～見つけた！」

## 後日みんなからいただいたアンケートには

「仲良しのともだちができた。」「博物館で仕事をしたいなあ。」など、うれしい感想が寄せられました。その中に「感想を読んで、布谷さんはまた足を上げて笑ってくれるやろか…」今回のプロジェクトの様子を端的に表していると思います（笑）。

保護者の方からも、「自分たちが新博物館づくりの一片に関わったことで、新博物館の開館の時を楽しみにしているようです」「テレビや新聞に博物館に関するニュースがあると気にとめ、話題にしています」といったご意見をいただきました。

みなさんありがとうございました。来年度以降もこのプロジェクトを発展させながら続けていきたいと考えています。

なお、プロジェクトを取材した番組を2010年3月にケーブルテレビで放映する予定です。お楽しみに！



「こども会議」の様子

活動内容	
◆第1回	オリエンテーション：私たちにとって博物館って？ 8月8日（土）13：30～16：00 場所：三重県総合文化センター 第2ギャラリー
◆第2回	博物館見学ツアー1 博物館ってどんなところ？表も裏も見てみよう！ 8月22日（土）9：00～17：00 博物館見学先：滋賀県立琵琶湖博物館
◆第3回	博物館見学ツアー2 博物館ってどんなところ？調べてみよう！ 9月19日（土）9：00～19：00 博物館見学先：兵庫県立考古博物館
◆第4回	フェイスワークショップⅠ 私たちがやってみたいことって博物館で実現できる？ 10月3日（土）13：30～16：00 場所：アスト津アストプラザ5階 研修室B
◆第5回	フェイスワークショップⅡ どんな博物館が欲しいか考えてみよう！その1 10月31日（土）13：30～16：00 場所：三重県総合文化センター 中会議室
◆第6回	フェイスワークショップⅢ どんな博物館が欲しいか考えてみよう！その2 11月7日（土）13：30～16：00 場所：三重県立博物館 会議室
◆第7回	10代と大人が博物館をめぐって対話する「こども会議」 11月28日（土）13：30～16：00 場所：三重県総合文化センター セミナー室C

1月30日開催の「みんなでつくる博物館会議2009」では、新博ティーンズプロジェクトの隊員（こどもたち）も、活動の様子などを紹介します！



野呂知事を囲んでみんなで記念撮影

## 博物館きわめるプロジェクト モノって何だろう？

「博物館」の特色は、地域のさまざまな「モノ資料」を詳しく調べて、みんなの宝として大切に保存し、展示公開するなどの活用ができるということです。

このプロジェクトは、こどもたちに、博物館とはどのようなところかを知ってもらい、博物館や「モノ資料」の面白さを実感し、もっと利用してもらおうことを目的に、県

内各地の博物館（松阪市文化財センター、芭蕉翁記念館、伊賀流忍者博物館、桑名市博物館）と連携して企画したものです。

今回は、「モノって何だろう？」をテーマに、最先端でご活躍の講師を招いて、小学4～6年生対象の3種類のワークショップを、松阪、伊賀、桑名の各会場で開催しました。

実施にあたり、県と連携館の学芸員などの関係者が、コーディネーターの染川香澄さんや講師とともに、プログラムの試行とディスカッションを行う「企画交流ラボ」を事前に行いました。これにより、ワークショップ本番の内容の充実をめざすとともに、今後の博物館活動にも活かすことができるよう心がけました。



モノって何だろう？のフライヤー (チラシ)

### 本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう！ in 松阪

9月26日、絵手紙作家の竹内伸子さんを講師に迎えて、松阪市文化財センター（はにわ館）で開催しました。

松阪市は、伊勢地方最大の前方後円墳である宝塚古墳から出土した船形埴輪をはじめ、全国的にも注目される古墳時代の埴輪がたくさん見つかる地域です。これらの資料は、同センターの資料として収蔵され、はにわ館の展示室で展示されています。

そこで、これらの埴輪をじっくり観察し、感じたことを絵手紙の作品として仕上げ

て、家族や友だちに届けるワークショップを行いました。参加してくれたこどもたちは総勢12人。竹内さんから、まず、「ヘタがいい、ヘタがいい」と、絵手紙の極意を教わり、書き方を練習したうえで、いざ、実物の埴輪たちとご対面。夢中で絵手紙づくりに取り組みました。

じっくり観察すればするほど、いろいろなことに気づき、イメージーションも広がるようで、子どもたちの作品は、どれも個性的ですばらしいできばえのものばかり。



最後に、できあがった絵手紙に思い思いの宛先を書いて、特製の「はにわポスト」に投函しました。また、古墳のかたちをあしらった大きな和紙に、みんなの絵手紙を1枚ずつ貼り込んで「大きな絵手紙」を完成させました。このみんなの大作は、年末まで、はにわ館に展示され、多くの方々にご覧いただきました。



本物の埴輪を見ながら絵手紙づくりに熱中



竹内さんからアドバイスを受けながら、さあもう少して完成だ

### いざ子ども 石の上にも 3時間 in 伊賀

11月1日、塩瀬隆之さん（京都大学総合博物館准教授）を講師に迎え、むかし藤堂藩の藩校であった史跡旧崇徳堂（伊賀市上野丸之内）を会場にして、「石」を素材とするワークショップを実施しました。

キーワードは、「触れるように見る」と「友だちと一緒に言葉にする」。

塩瀬さんと講師サポートの水町衣里さん（京都大学大学院情報学研究所）による進行のもと、参加したこどもたち20人は、4～5人からなる班に分かれて、まず、シマ

ウマのシマ模様を思い出して描くゲームにチャレンジ。分かったつもりのももよく分かっていないことに気付いたようです。

次に、班ごとに配られた6つの河原石をじっくり触ったうえで、手触りだけで自分の班の石を当てるゲームや、班ごとに決めた「喜怒哀楽」の「石」を、その特徴を記したシートをもとに当てあうゲームを行いました。

知らず知らずのうちに、触れるように「石」を見て、友だちと一緒に言葉にする世界に浸っていきました。



こどもたちは、プログラムが進むにつれ、「石」のもつ魅力にどんどん引き込まれていき、とても楽しそうにしていました。

最後に、本物の石器資料を観察して、河原石との違いを見つける作業や、鉱物資料をじっくり見て付けたオリジナルな名前の発表会を行いました。モノの見方の深まりを実感できる意見がたくさんみられました。



塩瀬さんの巧みな進行にどんどん引き込まれていきました



班対抗の石の当てあいっこゲームで盛り上がりました

## 物の語りを聞く お茶箱プロジェクト in 桑名



佐藤さんからワークショップの内容を教えてください



お互いの「たからもの」を台紙の上に飾り付けていきます

11月21日、佐藤優香さん（国立歴史民俗博物館助教）を講師に、最後のワークショップを開催しました。

会場の六華苑（桑名市）は、鹿鳴館の設計で有名な建築家コンドルが設計した洋館や、和館などからなる国の重要文化財の施設で、お茶会を行う今回のワークショップにも雰囲気ぴったりのところです。

参加した子どもたち14人は、まず毛氈が設えられた和室で、佐藤さんの点てたお茶と和菓子をいただきました。子どもたちの多くが、お茶会は初体験。厳かな雰囲気、みなちょっと緊張した面持ちでした。

佐藤さんは静かな口調でお

茶の道具には、それぞれ来歴（ストーリー）があることを語ります。そして、人が使っている物には、みな物語や歴史が秘められていることへと、子どもたちの思いを誘っていきました。

続いて、隣の部屋に移動。二人一組になって、家から持ってきた大切な「たからもの」を見せ合い、互いに、手に入れたときのことや思い出などを聞きとる作業を行いました。子どもたちの「たからもの」は、化石や昆虫標本、お人形、修学旅行の写真アルバム、お母さんの手作りバスケット、キャラクターカード、野球のクラブなど、いずれも個性的なものばかり。質問に



対して言葉にして語ることで、自分の「たからもの」の物語や歴史を再認識できているようでした。

最後に、聞き取りの結果を頭におきながら、台紙の上に、相手の「たからもの」を飾り付け、お茶会をした部屋にならべて、みんなで展覧会をしました。

### 3つのワークショップは、それぞれをアプローチの方法はちがいますが、



「大きな絵手紙」の前で（松阪会場）

いずれも、「モノ」にじっくり向き合い、「モノ」の中にある物語や魅力を見つけ、感じたことを表現することの面白さに気付いてもらうものです。

そのことを通して、「モノ資料」を扱う博物館が楽しいところであることを知ってもらいたいという点では共通し

ています。

今後、今回のワークショップの様子を伝える小冊子などを作成します。これにより、より多くの方々に今回の催しを知っていただき、子どもにとって楽しく親しみをもてる博物館づくりの輪を広げていきたいと思えます。



ポーズを決めて記念撮影（伊賀会場）



みんなの「たからもの」の展示の前で（桑名会場）

## 三重大学との連携とシンポジウムの開催

### 三重大学と連携協定を結びました。



3月16日に調印式を行いました

平成21年3月、国立大学法人三重大学と三重県との間で「新県立博物館」に関する連携協定を結びました。

この協定では、「新県立博物館基本計画」の実現を通じて三重県の文化振興をめざしています。そのために双方がもつ知的資産や県内外の自

然・文化資産の新県立博物館における活用方法などを協議するものです。

この協定にもとづき、三重大学には連携の窓口として、博学連携推進室（室長：菅原洋一<sup>すがわら</sup>三重大学附属図書館研究開発室教授）が設けられ、平成21年4月から県との間で

月1回程度の定期協議を行っています。

この協議では、今後の博学連携（博物館と大学との連携）のあり方や調査研究、活用発信活動における具体的活動などのように進めていくかなどを検討しています。

## 三重大学・三重県連携 文化力形成と地域活性化連続フォーラムの開催

今年度は、この連携事業の手始めとして、「文化力形成と地域活性化」をテーマとした3回の連続フォーラムを実施することになりました。この連続フォーラムは、三重大学が社団法人国立大学協会の支援を受けて実施する三重大学開学60周年記念事業大学改革シンポジウムとのジョイント企画として開催したもので、第1回および第3回を三重大学が、第2回を三重県がそれぞれ担当し、相互に協力して開催することとしました。



第1回フォーラムの様子

第1回フォーラムは、10月29日（木）に三重大学講堂（三翠ホール）で開催されました。

はじめに、早稲田大学教授の武田修三<sup>たけだしゅうさぶ</sup>氏から「パラダイムシフト時における人財育成と大学の役割」、イオン株式会社名誉会長の岡田卓也<sup>おかたたくや</sup>氏

から「文化力と企業ボランティアの役割」と題した基調講演が行われました。続いて内田淳正<sup>うちだあつまさ</sup>三重大学長、江畑賢治<sup>えはたけんじ</sup>三重県副知事、住田安弘<sup>すみたやすひろ</sup>三重大学保健管理センター所長、渡邊明<sup>わたなべあきら</sup>三重大学名誉教授をパネリストに「文化力・地域活性化に貢献する大学」

をテーマにパネルディスカッションが行われました。この中で、各パネリストからは、大学や三重県が行ってきた事業とその成果や課題が述べられ、大学が地域活性化に果たす役割についての活発な討議が行われました。



第2回フォーラムの様子

第2回フォーラムは、11月15日（日）、場所を三重県教育文化会館に移して「博物館と大学の連携により進める人づくり」をテーマに開催しました。

基調講演には三重県出身で、福井大学教育地域科学部教授の宇野文男<sup>うのふみお</sup>氏を迎え、「ミュージアムとの連携による大学教

育」と題して、福井大学で行われている博物館を活用した大学教育の実例などを交えた講演をいただきました。

後半のパネルディスカッションでは、三重大学の菅原洋一教授をコーディネーターに、三重大学人文学部教授の塚本明<sup>つかもとあきら</sup>氏、学生時代から伊勢河崎のまちづくりにかかわ

られた本居記念館研究員千枝大志<sup>ちえだだいし</sup>氏、建築家で四日市地域まちかど博物館推進委員会代議士<sup>ひさやすのりゆき</sup>表久安典之<sup>いとびとく</sup>氏、及び井戸畑真之<sup>いどのまこと</sup>新博物館整備推進室長の各パネリストから、事例報告を受けた後、文化力や博物館にかかわる人づくりについて議論いただきました。



第3回フォーラムの様子

最終回の第3回フォーラムは、12月5日（土）に再び会場を三重大学にもどり、「文化力と地域の活性化を拓く博学連携（博物館と大学の連携）」をテーマに開催されました。千葉県野田市博物館で博物館を核とした地域づくりに取り組んでみえる法政大学キャリアデザイン学部教授

の金山嘉昭<sup>かみやまよしあき</sup>氏から「21世紀の博物館像を考える博学連携の課題」、東京大学総合研究博物館教授の遠藤秀紀<sup>えんどうひでき</sup>氏から「しのぎを削る、人と知と博物館と」と題した基調講演をいただきました。後半のパネルディスカッションでは、三重大学の山田康彦<sup>やまだやすひこ</sup>教育学部教授をコーディネーター

に、豊田長康<sup>とよながやす</sup>三重大学前学長、安田正三<sup>やすだせい</sup>三重県生活・文化部長、まつしげやすひこ松生安彦<sup>よしおか</sup>三重大学監事、吉岡もとい基<sup>よしおか</sup>三重大学生物資源学部教授、西村訓弘<sup>にしむらのりひろ</sup>三重大学社会連携推進戦略室長をパネリストとして、博物館と大学の連携による地域づくりについて議論いただきました。

3回のフォーラムとも、いずれも100名を超える参加者があり、熱心に基調講演やパネルディスカッションに耳を傾けてもらいました。大学との連携の第一歩として行ったこの三重大学との連携フォーラムをきっかけに、今後は幅広い分野での連携を深めるとともに、他の大学や博物館へも連携を広め、その成果を新博物館の活動につなげていきたいと考えています。

## 県民のみなさんによる先行的な取組

三重県立博物館では、平成18年度からサポートスタッフの募集を始め、新県立博物館へ向けた先行的な取り組みとして活動を行なっています。

現在は、小学生から高齢の方まで約170名のみなさんがサポートスタッフ活動に参加され、毎年数十名ずつ仲間が増えていきます。活動では自らの学ぶ楽しさや知的好奇心を育みながら、世代や興味関心を越えた交流や、資料を通じた地域の再発見などに

よって協創活動の場づくりを進めています。

主な活動内容としては、三重の自然や歴史・文化を扱う三重県立博物館の活動に関する「研修受講」、県内各地で開催する移動展示や博物館教室・フィールドワークなどの博物館事業への「スタッフ協力」、各自の興味関心に沿った分野別の「グループ活動」（サポスタ情報局・おもしろ博物館づくり・化石鉱物・生きもの・染色・民俗・歴史の7グループ）などです。こう

## ～三重県立博物館サポートスタッフ活動～

した活動を通して、皆さんと「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。

12月19日には、おもしろ博物館づくりグループ初企画による「正月飾りづくり」体験が開催され、一般公募の20名が参加して、みんなで正月飾りづくりを行いました。



正月飾りづくりの様子

## 調査研究活動の展開

これまで紹介したものの以外にも、「ともに考え、活動し、成長する博物館」として、県民のみなさんや多様な主体との協創と連携の取り組みを、開館前から積極的に展開しています。

### ミエゾウの足跡化石調査

三重県立博物館では、県内各地で発見されたミエゾウやアケボノゾウなどのゾウ類化石を多数所蔵しており、過去にはゾウ類の足跡化石の発掘調査なども行っています。

これらの化石は、新県立博物館での展示への活用などを計画していますが、これにむけた取り組みとして、平成21年4月30日から5月6日、鈴鹿川水系御幣川流域（鈴鹿市伊船町）において、ゾウ類などの足跡化石の発掘調査

を行いました。

調査の実施にあたっては、県内外の学術団体や研究者（滋賀県足跡化石研究会、名古屋地学会ほか）、博物館サポートスタッフ、鈴鹿市、地元自治会など、多様な方々の協力を得て行いました。また、学校連携の一環として地元小学生（鈴鹿市立深伊沢・庄内・椿小学校の6年生）に化石発掘を体験してもらいました。

これらの調査や活動の結果は、速報展「やっぱりゾウは

歩いていた 御幣川ミエゾウ足跡化石調査より」（5月25日～6月12日、県民ホール）や、移動展示「むかし、鈴鹿にゾウがいた～御幣川ゾウ足跡化石調査から～」（9月1日～10日、鈴鹿市役所）として展示会を開催しました。

今回の調査結果は、調査報告書としてまとめて刊行するとともに、引き続き調査を進め、それらの成果を新県立博物館の展示設計に役立てる予定です。



現地説明会の様子  
こどものサポートスタッフも大活躍しています



地元小学生による化石発掘体験の様子

### 地域に残る古文書の調査

人文系の団体などと連携した取り組みの一つとしては、熊野古文書同好会、三重大学、県立熊野古道センターが継続的に実施している5,000点もの熊野市大泊町善根宿納札

についての調査に協力しました。

この成果は、1月30日（土）から2月14日（日）までの期間、熊野市で開催する移動展示「巡礼の道～伊勢参宮と

熊野詣～」に活かしていくとともに、2月6日（土）開催の調査報告会を協働で行うこととしています。



古文書調査の様子

## 設計の進捗状況

現在、基本計画をもとにした、博物館活動や運営についての具体的なありようを議論しながら、施設の設計や、展示設計の対象である交流創造エリア、展示エリアの各室の機能やデザインなどを検討しています。

建築設計では、毎週金曜日に定例会を開催するなど、学識経験者を交え、設計者と学芸員・建築技師等県職員による検討を行っています。建築設計の概要は、次のニュースで詳しくお伝えする予定です。

建築模型は、アスト津3階交流スペース内で1月下旬まで展示公開し、引き続き1月31日から熊野市での移動展示会場で展示する予定です。

展示設計では、学識経験者を交え、設計者と学芸員や建築技師等県職員により毎週木曜日に定例会を開催し、検討しています。

また、12月末までの間、のべ51回（参加者のべ約7,600人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新博物館についての

説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートによりご意見を集約しました。

特に、「三重県障害者社会参加推進協議会」及び「ユニバーサルデザインアドバイザー団体」、博物館サポートスタッフとの意見交換を実施するなど、できるだけ多くの方々から設計に対するご意見をいただき、よりよい施設づくりが行えるよう、努めています。



500分の1サイズの建築模型

## ～行事のご案内～

### ◆「みんなでつくる博物館会議2009」の開催

1月30日（土）に、三重県総合文化センターフレンテみえ2階セミナー室Aで、新博物館にむけた取り組みの進捗状況について報告し、県民の皆さんとオープンに意見交換をする場として、「みんなでつくる博物館会議2009」を開催します。あわせて、パネル展「新博物館への道」を12:00から16:30まで、セミナー室B（セミナー室A隣）で開催します。多数のご参加をお待ちしています。

日時 平成22年1月30日（土） 13:30～16:00

場所 三重県総合文化センター セミナー室A、セミナー室B（フレンテみえ2階）（津市上津部田1230）

### ◆県立博物館移動展示「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」の開催

絵画や文献を通して、江戸時代を中心とする旅や巡礼者、それをもてなした人々を紹介し、旅に対する思いや旅がもたらした交流、産業について考えます。特に、今回熊野市の方々との協働で実現した新発見「熊野市大泊町善根宿納札」の展示では、全国から熊野を訪れた巡礼者の姿と、それを支えた地域の人々の温かさを紹介します。

日時 平成22年1月30日（土）～2月14日（日） 9:00～17:00

休館日 月曜日（2月1日、8日）

場所 熊野市文化交流センター 多目的ルーム（熊野市井戸町643-2）

主催 三重県立博物館、財団法人自治総合センター

入場 無料

#### ◆関連行事 調査報告会

「納札が語る熊野古道の旅～新発見「熊野市大泊町善根宿納札」の世界～」

日時 平成22年2月6日（土曜日） 13:30～16:00

場所 熊野市文化交流センター 交流ホール

参加費 無料（申込み不要）



移動展示「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」のポスター

### ◆「しぜん文化祭 in みえ」の開催

自然関係の市民団体の活動紹介や交流、博物館との連携の場として、「しぜん文化祭 in みえ」を開催します。同時に行うシンポジウムでは三重県の自然について皆さんと考えます。

日時 平成22年3月20日（土）・21日（日）

ブース展示（20日 11:00～17:00・21日 10:00～15:00）

シンポジウム（20日 13:00～17:00）

場所 菟野町コミュニティセンター（菟野町大字菟野1418）

主催 しぜん文化祭実行委員会

共催 三重県、三重県立博物館

後援 菟野町教育委員会、三重県教育委員会（予定）

入場 無料



昨年度のしぜん文化祭 in みえの様子